

國名爲一號

有之哉、被尋下本所之處、兩號被染宸筆有之由、則寫之自新大納言局被入、觀覽靈元孝靈、中正、履中、孝元、反、正、件兩號之間可爲何號哉、靈元可然思召候、猶被群議可有言上之由、則申關白右府等之處、少時衆議之上、兩號之間可爲端方、叡慮之通奉り無子細候歟、殊近來明正院御例元明元正取合、院御定也、旁可然歟之由議奏輩奉之、參御前奏之、

〔續日本紀二五〕天平寶字八年十月壬申、高野天皇孝遣兵部卿和氣王、左兵衛督山村王略、中等、率兵數百圍中宮院、山村王宣詔曰、中帝位方乎退賜天、親王乃位賜天、淡路國乃公止退賜止勅、略下

〔皇年代略記淳仁〕天平神護元年九月薨、稱淡路廢帝、

〔玉海〕安元三年七月二十九日、已刻右中辨親宗爲院白河後、御使來云々、此次親宗語事等、讚岐院號德、院號、并宇治左府贈官贈位等事、來月三日可被行此事、後聞今日被行院號等事、宜止讚岐院號爲崇

德院、

〔續世繼春の二〕讚岐におはしまし、かば德、讚岐のみかど、こそ聞えさせたまふらめ、

〔源平盛衰記八〕讚岐院事

新院德、崇讚州配流ノ後ハ、讚岐院ト申ケル、

〔承久軍物語六〕十三日承久三、法皇鳥羽後、隱岐國へ還幸あるべき由きこしめせば、略八月五日

と申には、隱岐國海部郡荊田郷と申所につかせたまへば、領主あやしき御所を造りまうけて移

し奉る、

〔皇代記〕顯德天皇鳥羽後、又曰隱岐院、

〔百練抄四條〕延應元年二月廿二日壬戌、隱岐法皇崩御、五月廿九日戊戌、侍從中納言爲家、參著、召

大外記師兼仰云、以隱岐院鳥羽後、可奉號顯德院者、

〔增鏡二〕中院御門土は、始より老ろしめさぬ事なれば、承久ノあづまにもどがめ申さねど、父